

高岡市の在宅医療・介護等の連携推進体制

目指すべき姿: ①市民の誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる
②地域の医療、介護及び障がい福祉関係者による連携の推進

高岡市在宅医療・介護等連携推進協議会

ワーキングの進捗状況の共有・連携に向けた協議

事務局: 高岡市福祉保健部

在宅医療・介護等連携部会

各ワーキングのとりまとめ、連携推進協議会の事前協議

在宅支援 ワーキング

在宅医療・介護等の提供体制の構築推進（連携強化、業務効率化等）や、知識・技術向上を図る

情報共有 ワーキング

日常の療養、急変時、入退院時、看取りにおける連携ルールや手順等の理解を深め、医療・介護関係者等の情報共有を図る

普及啓発 ワーキング

市民に在宅医療や介護等についての正しい知識の普及啓発を図る

連携
・
協力

各職能団体・関係機関

高岡市医師会、市内公的病院、
高岡市歯科医師会、高岡市薬剤師会、
富山県理学療法士会、富山県作業療法士会、
富山県言語聴覚士会、
富山県歯科衛生士会高岡支部、
富山県栄養士会、訪問看護ステーション、居宅
介護支援事業所、地域包括支援センター、
障がい相談支援事業所、高岡市社会福祉協議会、
富山県高岡厚生センター、高岡市 等

高岡市医師会
（在宅医療支援センター）

在宅医療を担う医師確保等の 検討ワーキング

医師の訪問診療への参入促進、医師の負担軽減等について、課題の把握や解決に向けて検討を行う。

在宅医療・介護等連携推進協議会

高岡市医師会 厚生連高岡病院 高岡市民病院 済生会高岡病院 JCHO高岡ふしき病院
高岡市歯科医師会 高岡市薬剤師会 富山県理学療法士会 富山県作業療法士会 富山県言語聴覚士会
富山県歯科衛生士会高岡支部 富山県栄養士会 訪問看護ステーション
居宅介護支援事業所 地域包括支援センター 障がい相談支援事業所 高岡市社会福祉協議会
富山県高岡厚生センター
アドバイザー:富山県立大学 佐伯 和子名誉教授

在宅医療・介護等連携部会

高岡市医師会 訪問看護ステーション
高岡市歯科医師会 介護サービス事業所
高岡市薬剤師会 障がい相談支援事業所

在宅支援ワーキング (年3回)

高岡市医師会
公的病院地域連携室
高岡市歯科医師会
高岡市薬剤師会
訪問看護ステーション
介護サービス事業所
障がい相談支援事業所

情報共有ワーキング (年3回)

高岡市医師会
公的病院地域連携室
高岡市歯科医師会
高岡市薬剤師会
訪問看護ステーション
介護サービス事業所
障がい相談支援事業所

普及啓発ワーキング (年3回)

高岡市医師会
高岡市歯科医師会
高岡市薬剤師会
訪問看護ステーション
介護サービス事業所
障がい相談支援事業所

在宅医療を担う医師 確保等の検討ワーキング (定期的開催)

高岡市医師会に委託
(医師及び多職種での検討)

在宅医療・介護連携推進ワーキング実施内容について

在宅支援ワーキング (年3回)

在宅医療・介護等の提供体制の構築推進（連携強化、業務効率化、災害対応等）や、在宅医療・介護についての知識や技術向上を図る

情報共有ワーキング (年3回)

日常の療養、急変時、入退院時、看取りにおける連携ルールや手順等の理解を深め、医療・介護関係者等の情報共有を推進する

普及啓発ワーキング (年3回)

市民に在宅医療や介護についての正しい知識の普及啓発を図る

在宅医療を担う医師確保等の検討ワーキング (定期的開催)

在宅医療を担う医師の確保や医師の業務負担軽減等、在宅医療提供体制の確保を図る

- 1 医療・介護等の連携推進や業務効率化、人材確保に向けた周知啓発の検討を行う。
- 2 医療・介護関係者等の相互の役割・特徴等の理解を深めるとともに、在宅医療や介護の知識・技術向上に関する研修を検討する。

入退院時の連携（病院から在宅、在宅から病院への引継ぎ）が、より円滑にできるよう、高岡多職種ネットを活用したカンファレンスの開催等、連携のためのルール作りを行う。

在宅医療と介護等に対する市民の理解促進に向け、パンフレットの作成・配付、市民への周知方法、人生いきいきノート等を活用した人生会議(ACP)の普及啓発等を行う。

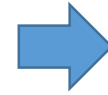
医師の訪問診療への参入促進、在宅医療を担う医師の負担軽減等について、課題の把握や解決に向けて検討を行う。

令和7年度 高岡市在宅医療・介護等連携推進協議会、各ワーキングの取り組み（案）

(1) 令和6年度 在宅医療・介護等連携推進協議会・在宅医療・介護等連携部会にて把握された課題及び対応策

課題

- ・協議会の必要性、目的を再共有する必要がある。
- ・活動体系図における評価指標、事業評価の方法や長期目標が不明確である。



対応策

- ・協議会にて、第8次医療計画における在宅医療の体制について、共有する。
- ・活動体系図の内容を精査する。

(2) 各ワーキングにおける課題及び対応策

<在宅支援ワーキング>

課題

- ・今後、誤嚥性肺炎、骨折の患者が増えるとの予測がある。
- ・日常の療養場面や災害発生時等において、他の職種の役割や取り組み内容について十分に共通理解する必要がある。

<情報共有ワーキング>

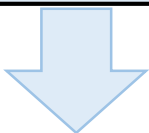
- ・高岡多職種ネットだけでなく、多職種が共通して使用できるツールがあればよい。
- ・入退院時に、どの職種でもわかるような情報共有ツールが必要である。

<普及啓発ワーキング>

- ・ACPの仕組みについて、若いうちから考えていくことが大切である。
- ・市民全体にもっとACPについて理解を深めてもらうことが必要である。
- ・退院後の医療や在宅介護サービスの内容や手続きについて市民に分かりやすく情報提供することが必要である。

<在宅支援ワーキング>

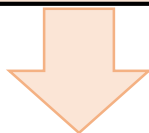
- ・多職種事例検討会、高岡多職種ネットを活用した事例検討会の他、災害時の支援、誤嚥性肺炎、転倒骨折に関する研修会を企画していく。
- ・場面ごとの多職種の取り組みを共有できる機会を設ける。



- ・研修会の企画(災害時の支援、転倒骨折予防、ACP(意思決定支援)から選定予定)
- ・災害支援についての取り組みの共有

<情報共有ワーキング>

- ・多職種に対し、研修会を通して高岡多職種ネットの周知啓発を図るとともに、システム活用の理解促進を図る。
- ・入退院時の医療・介護・障がい関係者の連携がより円滑になるよう、多職種共通の情報共有ツールを作成し、シート活用について周知する。



- ・高岡多職種ネットの周知啓発
- ・多職種共通の情報共有ツールの作成

<普及啓発ワーキング>

- ・市民に在宅医療・介護の内容や手続きの流れ等についての正しい知識の普及啓発を行い、在宅医療・介護の利用に対する不安軽減を図る。
- ・ACPのより一層の普及啓発のために、令和7年度に開発予定の人生いきいきノートアプリや人生いきいきノートについて多職種の視点で検討する。



- ・人生いきいきノートアプリや人生いきいきノートの内容の検討
- ・退院後の医療や在宅介護サービスの内容や手続きを、市民に分かりやすく示す

<在宅医療を担う医師確保等の検討ワーキング>

課題

- ・以前から不在時に代診医を依頼するシステムはあるが十分に活用されていない。
- ・在宅医療、介護の現場の困りごと(症例や診療報酬に関すること等)を相談する場がない。
- ・在宅医療、介護に関する新しい取り組み等を学ぶ機会が少ない。



取り組み

- ・代診医依頼システムが活用されていない原因を究明し、改善を図る。
- ・在宅医療の実例を提示し実際の対応や問題点等を多職種と情報を共有する。
- ・在宅医療に関する新しい器械や手技等について学ぶ機会を作る。



重点取り組み

- ・ICTを活用し現在の在宅主治医不在時の代診医ルールを改定する。
- ・在宅医療介護研究会において事例検討や在宅医療に関する勉強会を行っていく。